

# 第2次京丹後市総合計画「基本計画」

平成28年12月19日

京丹後市総合計画審議会

## 第1部 5つの重点項目

---

第1部では、この基本計画の期間において、市政運営の基本的・重点的に取り組むべき分野を記述しています。

# 市民と地域がキラリと“光り輝く”まちに

## “あるもの探し”のまちづくりへ

- 《1》【地域づくり】 地域が元気に“輝く”、市民主役のまち
- 《2》【ひとづくり】 若者が希望に“輝く”、「おもろい」まち
- 《3》【ものづくり】 “輝く”<sup>たくみ</sup>匠の技と資源が集積するまち
- 《4》【魅力づくり】 “輝く”豊富な「食材」を活かしたまち
- 《5》【基盤づくり】 “輝く”未来に、社会の基盤を築くまち

## 合併後も進む人口減少と高齢化

京丹後市は、平成16年に、6つの町が合併してスタートしました。自然、社会、経済、地理的条件を共有し、ひとつのブロックとして助け合い、連携し、ときには競争して、地域の均衡ある発展を図ってきました。

地域資源は、それぞれの町の先人が培い、何代にもわたって守り育て、今につないできました。合併は、それを6町の町民すべての共有財産として活かし、一緒になって、豊かで誇りを持てる故郷を創り、育て、さらに次の世代に引き継いでいこうとするためでした。そして、合併してから13年の月日が経ちました。

今、日本では、人口減少と高齢化が進んでいます。私たちのまちも、決して例外ではありません。むしろ、少子高齢化の進み方が早い地域に属しています。

平成27年の国勢調査で、京丹後市は、前回調査（平成22年）と比べ、人口は59,038人から55,054人へと、3,984人減少しました。減少率は<sup>マイナス</sup>△6.7%で、京都府下の市においては2番目に高い減少率となりました。また、平成22年の国勢調査を基に国立社会保障・人口問題研究所が推計した「平成27年の将来推計人口」は、55,340人であったため、この推計値より286人（0.5%）少ない結果となりました。同様に、世帯数は20,690世帯（2.85人／1世帯）から20,469世帯（2.69人／1世帯）と221世帯減少し、高齢化率は30.9%から35.3%へと、4.4%上昇しました。

このように、本市の人口減少は、推計以上のスピードで進んでいます。

## 光り輝く地域資源がまちの宝

これに対処するためには、やはり、“地域力”を高めるとともに、「若者が希望にあふれるまちづくり」を進めていかなければなりません。

そのためのキーワードは、『輝く』です。

「観光」という言葉は、約3千年前の中国の「易経※1」の中に出てくる「<sup>えききょう</sup>観国之光」が語源で、「地域の優れた（光り輝く）部分を学ぶこと」といった意味合いを持っています。

光り輝く“魅力的な宝”がふんだんに存在する京丹後市を“住んでいる人が誇りを持ち、沢山の人が訪れる「市民と地域がキラリと光り輝くまち」に進展させ、ここに住む人が力を合わせて、高

め、発信していく必要があります。

※1【易経】(えききょう)：五経の一つ。占いの理論と方法を説く書。『周易』とも、単に『易』ともいう。

## 楽しくなければ、面白くする

このまちのイメージについて、「東京から一番遠いまち」、「田舎で、楽しくも面白くもないまち」などと評されます。

しかし、よく見渡せば、このまちには、キラリと光り輝く魅力的な資源や資産が沢山あります。「絶景の海も山もある」、「食べ物が美味しい」、「文化財も豊富だ」。これらの宝に磨きをかけ、発信し、さらに輝かせることが重要です。

「楽しくなければ、面白くしたらいい」、「遊ぶところがなければ、つくればいい」。

親が子どもに「帰っておいで」と自信を持って言えるまち。そんなまちを皆でつくっていく必要があります。

地場産業の興隆や観光の振興、移住・定住の促進、コミュニティの再生、教育の充実、安心な福祉や医療の確保など多様な分野の様々な課題に対し、市民や自治組織、NPO、企業など多彩な個人や団体が、その力を発揮して、互いに交流や対話をしながら、その解決に取り組むことが、今、必要となっています。

まちづくりを皆で一緒になって考え、協働により多彩な取組みを始められるような場としての「まちづくりのプラットフォーム※2」を作り、人々が相集い、相互作用によって、このまちの「強み」に磨きをかけていくことが必要です。

※2【プラットフォーム (platform)】：(駅の)プラットフォーム、ホーム、客車の乗降段、デッキ、バス後部の乗客乗降口、演壇、教壇、講壇、討論の場、(人が働いたり見張ったりする)高い足場

## 若者も女性も高齢者も皆が出番

今回、見直しをする「基本計画」は、合併時の思いであった「先人や今の人が大事に育て、今を支える、人、生活、自然、歴史、文化という“地域の資源”を共有財産として活用し、今住んでいる人も、これから住む人も、育った人も、『この京丹後市の市民であること』に誇りを持つようなまちづくりをすること」を軸として、策定するものです。

しかし、これは、決して“たやすい”ことではありません。

だからこそ、若い人もお年寄りも、男性も女性も、子どもも大人も、今まで以上にまちづくりの舞台の“出番”が増え、「多様な市民の個性や力を結集したまちづくり」を進めることが大切です。

ここに掲げる「5つの重点項目」は、この基本計画の期間において、市政運営の基本的・重点的に取り組むべき分野を指し示したものです。

この<sup>まち</sup>京丹後で生きていくため、そして未来へつないでいくため、京丹後市は、この「5つの重点項目」に軸足を置き、“あるもの探し”の視点で、新たなまちづくりのステージへと歩みを進めることとします。

### 《1》 地域が元気に“輝く”、市民主役のまち

“光り輝くまち”をつくり上げるために、まずは、“地域力”を高めることです。

過疎化や高齢化が進み、集落自治の維持・継続が困難な状況になりつつある中で、地域集落が有する様々な機能を補完し合うような新たな地域自治の仕組みづくりを検討する必要があります。

また、「長寿のまち」にふさわしい健康で安心して暮らせる地域づくりをさらに進めるため、「保健」、「医療」及び「福祉」が連携した「地域包括福祉・医療体制」の整備などを促進させなければなりません。

さらに、地域が有するたくさんの宝を磨き上げ、誇れるまちづくりを進めるためには、「若者」、「女性」、「高齢者」など多様な人々が主役になって活躍できるまちをつくることが重要です。それぞれが持っている豊富な技や経験、たゆまない行動力や新しい発想力などを活かせる「仕組みづくり」や「支援制度」の構築が必要です。そのためにも、常に市民の“生の声”を市政に反映することが重要です。

#### **(1) 小規模多機能な自治の仕組みを検討**

過疎化や高齢化が進む中で、転出や世帯分離による核家族化が進み、限界集落数が増加（平成22年：7集落→平成27年：28集落）するなど、集落自治の維持が困難な状況になりつつあります。しかし、市内には、久美浜町域の「地区活性化協議会」や大宮南地区の「里力再生協議会」など、小学校区などの範囲で、自治会や福祉活動団体等で構成される地域運営組織が、地域の実情や課題に応じて多様な機能を担う仕組みづくりに取り組んでいる地域が多くあります。

##### **【取組みの視点】**

小規模な集落が多い本市では、上記のような仕組みづくりを市内全域的に拡大したり、充実させたりすることについて、具体的な検討を進めていきます。

#### **(2) 安心の「地域包括医療・ケアシステム」を推進**

京丹後市には、地域の医療を支える4つの病院（うち、市立病院は2か所）と21の診療所、23の歯科診療施設が補完しながら、住民の多様化する医療ニーズに対応しています。

このまちでは、「医療」と「保健」、さらに「福祉」の各分野が連携した「地域包括医療・ケアシステム」の取組みにより、重度の要介護状態となっても、住み慣れた地域で“自分らしい暮らし”を人生の最期まで続けることができるまちづくりを進めています。

### **【取組みの視点】**

このまちに住み続けるには、“診療や介護が必要になっても、いつでも、いつまでも安心して暮らせるまち”が必要条件です。今まで以上に、地域医療体制の充実と保健・福祉分野との連携を強化します。

## **(3) 全国注目の“健康長寿地域”の特性を活かす**

長年にわたる「地域包括ケア」の取組みのほか、一人暮らしの高齢者や障害者、生活困窮者等への地域での「見守り活動」や「交流の場づくり」、また、「就労相談支援」など、行政による「寄り添いサポート」は、全国的にみても充実した福祉事業です。

また、市内各地区で実施する総合検診の中でも、特に「がん検診」は、京都府下でもトップクラスの高い受診率を維持しています。さらに、生活習慣病や重症化の予防のための「きめ細やかな保健指導・栄養指導」は、市民の健康づくりをサポートしています。

高齢者へは、地区サロンでの「出前講座」の開催や市オリジナルの「介護予防体操」の普及により、健康寿命の延伸に取り組んでいます。本市は、男性長寿世界一になった故・木村次郎右衛門氏（116歳）をはじめとして、現在も100歳以上の高齢者は、市内に75人が在住（平成28年11月1日現在）しており、“長寿のまち”として、全国から注目を集めています。

### **【取組みの視点】**

誰もが安心して暮らすことができるために、地域全体で支え合う「見守りネットワーク」を展開します。ウォーキングや介護予防体操を通じた健康づくりや、高齢者の知識、技能、経験などを活かせるまちづくりを行い、健康で長生きできる“健康長寿地域の実現”を進めます。

## **(4) 若者、女性、高齢者など市民総活躍の地域**

平成28年度の「市民力活性化推進プロジェクト事業補助金」の申請団体数は、同年4月時点で、すでに69。また、平成26年度から始まった「コミュニティビジネス応援補助金」には、すでに19に上る個人や団体が同補助金を活用し、ビジネス手法を用いて空家を活用するなど、新たな地域づくり、仕事づくりが盛んです。

このまちには、すでに、面白いまちづくりや地域の魅力を引き出そうとしている“輝く”人々があふれています。

### **【取組みの視点】**

「地域」をつくるのは、まさに「ひと」です。若者、女性、高齢者などが、夢と希望を持って、まちづくりや地域づくりを主体的に担うことができる“仕組み（プラットフォーム）づくり”を進めます。

## **(5) 市民の“生の声”を市政に反映し、広く発信**

市長と市民との座談会や、提案・意見箱、パブリックコメント、各種審議会、区長との懇

談会など市民の“生の声”を把握、理解し、市政に反映する取組みを進めています。

また、市民主役のまちづくりの取組みや、生き活きと暮らす市民の特集効果等により、<sup>フェイスブック</sup>Facebookファンが急速に増加するなど(平成27年度から平成28年度に掛けて20%増)、本市の取組みへの関心が高まっています。

#### **【取組みの視点】**

市民の“生の声”を各種の計画や施策、予算等に反映させるために、「市長とフラット座談会」や「ワークショップ」などを数多く開催します。また、広報面では、本市の魅力や市民主役の地域づくりへの取組みを市内はもとより、全国や世界へも発信するとともに、「京丹後のまちづくり・地域づくり」に関して双方向のコミュニケーション環境づくりを進めます。

### 《2》若者が希望に“輝く”、「おもろい」まち

『光り輝くまち』をつくり上げるために大切なことは、“若者が希望に輝く”まちづくりを進めることです。

そのためのキーワードは「おもろい」「おもしろえ」です。このまちが、全国の若者から「選ばれる田舎」になることを目指すことが重要です。

「子育て環境日本一」の整備や「教育力」の強化、郷土愛を育む「丹後学」の充実や「伝統文化」の継承などのほか、自己実現のためのライフスタイル形成への後押し、スモールビジネスやソーシャルビジネスなどへの起業支援、「まちづくりワークショップ」の常設化など、若者世代が主役となって、まちづくりを進める仕組みづくりが必要です。

また、人材不足や後継者不足が叫ばれる中、空家を活用した移住対策などを進めることにより、人口減少スピードの緩和や次代の京丹後を担うまちづくり人材の確保が求められています。

#### **(1) 「(仮称)京丹後未来会議」の創設で若者の出番**

京丹後市には、光り輝く地域の資源を活かし、夢や希望をもって暮らしている若者が数多く在住しています。なかには、「市の未来を担う若者世代の交流や意見交換、研さん、さらには行動を起こしたりする場として、『(仮称)京丹後未来会議』を創設し、希望に輝く『おもろい』『おもしろえ』まちづくりを大胆に推進すべき」と主張したり希望を寄せたりする若者も多くいます。

##### **【取組みの視点】**

「(仮称)京丹後未来会議」を通して、まちづくりに関する市民発のアイデアを創発し、今後進める政策の種を発見するとともに、若者の感覚や女性の感性、市外在住者等の視点を取り入れて、京丹後市の魅力の客観化・見える化を進めます。また、行政が担っていた分野や領域など（空家対策や移住促進、子育て支援、地域のにぎわい拠点づくりなど）に若者世代の出番を増やしたり、新たなビジネスの創出につなげたりしていきます。

#### **(2) 歴史ある伝統芸能や芸術・文化を活かしたまち**

京丹後市には、「丹後王国」と称される古代丹後の歴史や文化財、市内の各地域で伝承される伝統芸能や祭りが数多く存在します。京丹後市の歴史文化や伝統芸能の魅力を理解し、触れ合う機会を数多く提供するとともに、若者をはじめ市民が企画・参加する芸術活動を積極的に支援しています。

##### **【取組みの視点】**

京丹後市の歴史文化や伝統芸能等の魅力に触れることを通して、その継承とともに、文化や芸術的な感性が磨かれ、創造性豊かな「ひと」を輩出する環境づくりを進めます。



### **(3) 「子育て環境日本一のまち」を目指した環境整備**

「保育所のゼロ歳児受入」の体制を整え、「幼保一体型のこども園」も整備しています。「延長保育のさらなる時間延長」はもとより、「休日保育の実施」、「第三子以降の保育料無料化」、「放課後児童クラブの小学校6年生までの利用年齢拡大と利用料引き下げ」などを実施し、待機児童ゼロを維持しています。

また、子育て世代包括支援センター（はぐはぐ）を設置して、妊娠期から子育て期までにわたる切れ目ない支援を行っているほか、8か所の「地域子育て支援センター」では、育児相談や同年齢の子どもとその保護者の交流の場を提供し、利用者数は年々増加するなど、保護者の就労を手厚くサポートしています。

#### **【取組みの視点】**

高校生までの子ども医療費の負担軽減なども含め、「安心して子どもを産み育てやすい環境の整備」を進めることにより、「子育て環境日本一のまち」を目指します。また、全国的にみても充実している本市の子育て環境を内外に発信することにより、移住・定住の促進にもつなげます。

### **(4) 「小中一貫教育」と郷土を愛する「丹後学」のすすめ**

就学前から中学校までの10年間を見通した「小中一貫教育」に取り組み、中学校入学時のつまずき防止とともに、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「たくましい心とからだ」を身につけ、その後の人生を力強く生きる力を養う教育を行っています。また、「丹後学」をはじめ、地域や郷土への愛着を深め、誇りを培う教育を進めています。

市民の得意分野で教育活動をサポートする「学校支援ボランティア」は、すでに500人を超え、その取組みが文部科学大臣賞を受賞（平成25年度）しました。

#### **【取組みの視点】**

地域が一体となり、職場体験等の教育活動をサポートするなど、確かな学力と豊かな人間性を育む取組みを進めます。

### **(5) 移住・Uターン支援で次代のまちづくり人材を確保**

「お試し移住体験住宅」や「移住促進空家改修支援制度」、「空家情報バンクの設置」や「移住支援員の配置」、「コミュニティビジネス応援制度」など、IターンやUターンなど移住希望者に対する支援を行っています。これらの制度を利用して、平成27年度は30世帯（49人）が、平成28年度（9月末現在）は16世帯（21人）が転入しています。

#### **【取組みの視点】**

市内の「空家情報」を把握し、希望の多い「賃貸物件」の確保や市の魅力発信、晩婚・未婚対策、移住につながる「婚活」の支援、スモールビジネスやソーシャルビジネスへの起業支援などを図ることにより、人口減少スピードの緩和や次代の京丹後市を担うまちづくり人材の確保を図ります。

### 《3》 “輝く”<sup>たくみ</sup> 匠の技と資源が集積するまち

『光り輝くまち』をつくり上げるために、“経済の活性化”が重要です。農林水産業、織物業、機械金属業、観光業、サービス業などの地域産業の振興施策や企業誘致等による雇用拡大施策を展開する必要があります。

京丹後市は、2020年には創業300年を迎える「世界に誇る“丹後ちりめん”」の生産地であり、高度な機械金属加工技術の集積地でもあります。このまちでとれるコメも野菜も魚も絶品です。

しかし、このように、小さくともキラリと輝く素晴らしい地域資源や地域産業があるにもかかわらず、まだまだ知られていません。特に、このまちで育っている子どもたちに、地域産業の実情を知ってもらうことが大切です。中高生の職場体験や学生のインターンシップなど、郷土の産業教育や情報発信にも力を入れていかなければなりません。

商工業の振興はもとより、地域資源を活用したイノベーションや起業、さらに、農林水産業の“成長産業化”が必要です。

#### **(1) 「丹後ちりめん創業 300 年」と「機械金属業」の成長**

「丹後ちりめん」に代表される絹織物の白生地生産量は、日本一です（351,309反：平成27年度）。また、高度な技術を誇る機械金属業が集積されており、地域経済を支えています。

##### **【取組みの視点】**

基幹産業である「織物業」や「機械金属業」のブランド力のさらなる向上を図るため、積極的な情報発信を行います。また、大学等と連携して、新たなシルク産業の創造に向け、基礎研究等を進めるとともに、2020年の「丹後ちりめん創業300年」に向けて、本市の「ものづくり産業」の成長を促進させます。

#### **(2) 経営革新や販路開拓で新事業・新産業の創出**

これまでに培われた地域産業の技術力や商品開発力と、自然環境等の豊富な「地域資源」を活かし、地域間・異業種間が交流を図ることを通して、新事業・新産業創出への機運が高まっています。

##### **【取組みの視点】**

経営革新、技術開発、商品開発、販路開拓、情報発信などへの積極的なチャレンジや、地域資源を活用した新たな事業分野への進出、新事業創出に向けた取組みを支援し、事業者の成長を後押しします。

#### **(3) 人材の確保・育成、就労の促進とTWの推進**

本市には、製造業、医療・福祉（分野）、農業、建設業、観光業、サービス業、漁業など様々

な就業の選択肢があるとともに、地域資源の活かし方次第で、新たなビジネスが生まれる可能性にあふれています。また、恵まれた自然環境の中で、充実した子育てや、新たなワークスタイルを構築できる魅力があります。

#### 【取組みの視点】

後継者人材は、企業の持続的な発展に不可欠です。「企業と就職希望者のマッチング」や「U・Iターンの促進策」などを実施することにより、若者の地元就職を促し、就労の促進と雇用の確保を図ります。また、移住・定住促進とともにICTタウン化（※1）を進め、新たなワークスタイルとしての「テレワーク（※2）」を推進します。

（※1）ICTタウン：情報通信技術を活用し、あらゆる分野を情報基盤で結ぶまち

（※2）テレワーク（Telework）：情報通信機器を活用し、時間や場所の制約を受けずに、働くことができる形態

### **（4）農林水産物の生産振興とブランド化・6次産業化**

本市は、食味ランク最高評価「特A」を西日本で最多獲得している「丹後産コシヒカリ」などの生産を中心とした京都府下最大規模の農業地域で、国営開発農地や海岸部砂丘地では、京野菜や果樹、お茶等が盛んに栽培されています。また、「カニ」や「カキ」といった海の幸にも恵まれ、近年は、トリ貝の養殖事業による高付加価値化への取組みが盛んです。

#### 【取組みの視点】

農林水産業の活性化を目指し、生産基盤の安定化を図るとともに、農林水産物のブランド化や6次産業化など、本市の特徴を活かした「儲かる農林水産業」を推進します。また、「丹後農業実践型学舎」や「海の民学舎」の取組みなどを通じて新規就業者や後継者の確保・育成に取り組みます。さらに、里山再生や森林整備による有害鳥獣対策と優良農地の確保、漁港整備による品質・衛生管理強化を図ります。

### **（5）食や観光の恵みを与える「世界ジオパーク」の活用**

延長8キロメートルにわたるロングビーチ（小天橋海岸から浜詰海岸までの砂浜海岸）や鳴き砂海岸で有名な「琴引浜（ことひきはま）」のほか、「立岩（たていわ）」や「屏風岩（びょうぶいわ）」などの大自然を満喫できる「ユネスコ世界ジオパーク」のスポットが豊富に存在します。この特徴ある地形や地質は、海の幸や山の幸、里の幸など「豊富な食の恵み」を私たちに与えてくれます。

さらに、海に栄養源を送り届け、季節ごとに様々な表情をみせる山々や里山風景は、日本の原風景を思い浮かべさせ、情緒にあふれています。

#### 【取組みの視点】

本市の宝である風光明媚な自然や里山の景観を守るとともに、古代から続く歴史や文化、芸術を活かしたまちづくりに力を入れます。また、独特の地質や地勢を活用したスポーツイベントの開催や「美食のまち」の発信にも取り組みます。

## 【魅力づくり】

### 《4》 “輝く” 豊富な「食材」を活かしたまち

『光り輝くまち』をつくり上げるために、「食」の魅力を活かすことが大切です。

京丹後市は、風光明媚で豊かな自然に育まれた「食」の宝庫です。食文化が息づくまさに「食の王国」と言えます。自然、歴史、文化、気候風土に育まれた豊かな食文化を活用して、『美食観光』の推進にも力を入れる必要があります。

安全で新鮮な美味しい食材を生産し、その美味しさを全国や世界に自信をもって発信することが重要です。次代の子どもたちにも、その素晴らしさを伝えていかなければなりません。

そのためには、生産・流通・販売体制を整え、活動する団体や人材を育成し、6次産業化や京丹後産物のさらなるブランド化に取り組む必要があります。

#### **(1) 『美食観光』で「海の京都」をさらに推進**

このまちには、「カニ」や「カキ」をはじめとする海の幸、「ジビエ」や「山菜」などの山の幸、全国食味ランキングで最高評価「特A」を西日本で最多獲得している「丹後産コシヒカリ」のほか、伝統的な京野菜、さらに、ナシ、モモ、ブドウなどの果樹をはじめとして、豊富で質の高い農林水産物を生産しています。「ユネスコ世界ジオパーク」の地質が産み出す貴重な産物です。

##### **【取組みの視点】**

本市の海、山、里の豊かな自然や地域の伝統、技術、こだわりを持つ人の手によって育まれた旬の食材、安全・安心な食材を、さらに観光に活用する『美食観光』を推進します。また、「海の京都DMO」や「豊岡DMO」など、京都府や関係市町との広域的な連携体制のもと、効果的なプロモーション活動や情報発信を行います。

#### **(2) 世界ジオパークを活用し「体験型観光」を全面展開**

ユネスコ世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの豊かな自然資源が市内全域に広がり「立岩」、「琴引浜」、「夕日ヶ浦」、「久美浜湾」などの旅行者を魅了する景観スポットや、貴重な資源や地域産業を活用した「ほんまもん」の体験プログラムが充実しています。

##### **【取組みの視点】**

京丹後市の素晴らしい景観スポットへの誘導はもとより、食、歴史、文化財、産業などの地域資源を最大限に活用した、四季折々の「体験型観光」を促進します。

さらに、「美食観光」と「体験型観光」を中心に、恵まれた資源を活用・発信し、アジア圏、欧米諸国等をターゲットとしたインバウンド（※1）の促進や、2020年東京オリンピック・パ

オリンピックのホストタウン登録など、国内外を対象にしたスポーツ観光に取り組みます。

(※1) インバウンド (Inbound) : 外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを「訪日外国人旅行」または「訪日旅行」といいます。

## 【基盤づくり】

### 《5》 “輝く” 未来に、社会の基盤を築くまち

『光り輝くまち』をつくり上げるために、全国的に格段の遅れのある高速道路や新幹線、公共交通などのインフラ整備を進める必要があります。

「都市部までの遠さ」という地理的、時間的不利を克服するために、本市のものづくり産業は、高品質の製品づくりを徹底するなど「付加価値の向上」に努めてきました。

しかし、競争がさらに激化する産業界にとって、また、インバウンドをはじめとした観光客の誘致、災害時のリダンダンシー（※1）確保など、ヒト、モノ、カネ、情報の移動・流通環境の向上のためには、交通インフラの整備は、まさに急務です。

さらに、市内や近隣自治体間での公共交通や道路、河川、橋りょう、公園など市民の日常生活を支える都市基盤や防災基盤の整備のほか、ソフト面においても、国内の他地域や外国の町、大学等高等教育機関との交流や連携を進めることにより、未来の都市づくりに向けた、ハード・ソフト両面の社会基盤の整備に取り組む必要があります。

（※1）リダンダンシー（redundancy）：「冗長性」、「余剰」を意味する英語。国土計画上では、自然災害等による障害発生時に、一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながるないように、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されている様な性質を示す。

#### **（1）山陰近畿自動車道・山陰新幹線の早期実現**

平成 27 年 7 月に京都縦貫自動車道が全線開通し、平成 28 年 10 月には山陰近畿自動車道・野田川大宮道路が開通しました。これによって、京丹後市が全国の高速道路ネットワークとつながり、本市へのアクセスが飛躍的に向上しました。

開通後は、観光客が大幅に増加するなど、その効果が表れています。さらに延伸される「山陰近畿自動車道の早期実現」に大きな期待が寄せられています。

また、「山陰新幹線」など日本海側を走る超高速鉄道の実現を展望した「調査・要望活動」を展開しています。

##### **【取組みの視点】**

高速道路網や高速鉄道網の整備など、さらなる交通アクセスの向上に向けて、関係自治体と一緒にあって国会議員や国等に要望活動を展開するなど、都市部との時間的短縮の実現に取り組めます。また、市内の「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」を円滑に流通させるための基盤となる「生活幹線道路網」の整備を推進します。

#### **（2）ますます需要高まる「公共交通充実」に対応**

「上限200円バスの運行」や「高齢者片道上限200円レールの試行」、また、「EV乗合タクシーの配備」や「ささえ合い交通（ICTによる配車システムを活用したNPOのタクシー）の導入」などにより、市内の公共交通空白地は徐々に解消されつつあります。今後はさらに、少子高齢化への対応や日常生活の利便性向上、観光の誘客促進など、ますます公共交通の需要が高まることが予想されます。

#### **【取組みの視点】**

新バス路線やバス停留所の増設、駅舎改修など駅機能の強化、魅力的な列車へのリニューアル、便利な運行時刻への改定など、公共交通機関の魅力や利便性の向上を図ることにより、引き続き、公共交通空白地の解消等を図ります。

### **(3) 市民の命を守る防災や防犯の強化**

本市では、「京丹後市地域防災計画」に基づき、地域を守る消防団活動への支援や市民向けの救命講習会、防災訓練を定期的に行うほか、建設業界等の防災関係機関との連携を図ることにより、消防・防災体制を強化し、かけがえのない市民の命を守る活動を進めています。

防犯・交通安全面では、「日本で第1級の安全で安心を感じられる住みよいまちづくり」を目指して、防犯ボランティア活動等の充実を図り、刑法犯認知件数の減少に結び付けています。

#### **【取組みの視点】**

市民が安心して生活できる環境を目指し、災害を未然に防ぐためのインフラ整備や大規模災害時の迅速な対応等による「災害に強いまちづくり」を進めるとともに、犯罪や交通事故が未然に防止できる体制づくりを進めます。

### **(4) 魅力的な都市空間の創出と街並み景観の保全**

魅力的な都市空間を創出し、だれもが働きやすく住みやすい生活環境を築くため、「京丹後市都市計画マスタープラン」に基づいた土地利用計画の推進と都市施設整備の検討を進めています。また、「豪商稲葉本家」を中心とした久美浜一区や夕日ヶ浦として有名な浜詰地区などでは、歴史的、文化的な趣を感じられるような街並み景観の保全にも取り組んでいます。

#### **【取組みの視点】**

商業地や居住地の拡散の抑制、基幹産業の振興と工業機能の強化を目指し、それぞれの用途に応じた適切な土地利用計画を推進します。また、うるおいのある住環境や都市公園・憩いの場などの整備により生活環境を向上させるとともに、地域の個性を活かした街並み景観の形成と自然環境の保全・共生を図ります。

### **(5) 「多文化共生」等で“ソフト面”の社会基盤整備**

このまちには、540人の外国人市民（永住者や技能実習者など）が生活しています。平成26年秋、米軍経ヶ岬通信所（丹後町）に米軍TPY-2レーダーが配備され、約160人の米軍関係者も市内に居住しています。こうした国際化の進展や人口減少社会などに対応す

るため、本市では「多文化共生社会（※1）」の形成に取り組んでいます。

また、国内外の友好都市と交流を図ったり、京都府北部5市2町がひとつの圏域を形成して地方創生に取り組んだり、また、大学等の高等教育研究機関と一緒に地域課題を研究したりするなど、他地域や他団体と多様な交流を深めることを通して、まちや社会の「ソフト面での基盤づくり」を進めています。

（※1）多文化共生社会：国籍、民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生活できる社会。

### 【取組みの視点】

外国人市民との交流機会を多く設けることはもとより、日常生活や教育現場、就労現場、また、公共施設の利用時や災害時における対応など、「多文化共生社会の浸透」を図ることにより“ソフト面”の社会基盤整備を進めます。

また、平成27年のケネディ駐日米国大使の本市訪問に伴う米国の関係地域との新たな交流など（友好都市の締結など）を通じて、文化面や経済面における交流だけではなく、国際的視野を持った人材の育成などにも取り組みます。